令和８年度 第２回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

１　日時　令和８年10月20日（火）午前９時30分から午後１時まで

２　場所　静岡県立浜北西高等学校　応接室他

３　出席者

〇委員【敬称略】

梅林欽哉（元小学校・中学校管理職）、阿部卓也（静岡県議会議員）＜欠席＞、
横田みどり（横田整形外科婦長）、金島徹（浜名区調整官、元西区副区長）＜欠席＞、
松本幸範（浜北国際交流協会副会長）、中津川智美（常葉大学経営学部教授）
森下晃行（農業起業家／TATSUJIN株式会社）

〇学校関係者

野澤博文（校長）、寺田　心（副校長）、榎本好孝（教頭）、鈴木裕子（事務長）
岩下直子（探究班長）

４　議事

第一部　総探の日

(1) 校長挨拶、日程説明
(2) 講話、座談会、中間発表会
(3) 探究班長挨拶、アンケート

第二部　意見交換（生徒の発表・テーマ設定等に関して）

(1) 学校から

・生徒が主体となってテーマを設定し、夏休み中に校外でのフィールドワーク調査を実施した。その際、自治体・企業等へのアポイントメントの取り方や電話応対マナー等の指導も行った。
・生徒は主体的に課題に取り組んでいるが、それを上手に説明するための、プレゼンテーション能力の育成が課題である。
・課題解決については、11月頃に300～400名規模のアンケートを行い、そのデータから多角的な分析・考察が行えるように指導する予定である。

(2) 委員から

・農業ブランディングやグラウンドの乾燥対策など、興味深く面白い視点のテーマが見られた。
・優れた内容であっても伝え方・見せ方が不十分では価値が伝わらないため、設計図に沿って話すプレゼンテーションスキルの指導が重要である。
・「多文化共生」を主題に据えて、真剣に考えているグループがとても良かった。
・自身のドイツ滞在経験（30年前からの社会の変化、安全面やトイレ利用時の防犯知識等）を生徒と共有した。
・生徒から、日本紹介パンフレット作成をしたいと相談があったので、必要な書類手配のサポートをしますと伝えた。

・「なぜ男性看護師が少ないのか」などジェンダー課題を含む医療テーマに対し、生徒が素直かつ真剣に参加し、活発な質問が交わされた。
・最も伝えたい核心（メッセージ）を１つにまとめて発言することの重要性を助言した。
・ゼミ体制の導入により、フィールドワーク先の選定から仮説、検証に至るまでのプレゼンテーションが完成されていて、発表の質が年々向上していると感じる。
・生徒が非常にフレンドリーで親しみやすく、学校の魅力となっている。
・探究の発表については、指名時だけでなく、自発的に発言ができるとよい。また、単なる調べ学習（ポスターや紙芝居作成）に留まらず、容易に答えが出ない発展的な問いの設定も期待したい。
・同じようなアンケートや手法を用いるグループ同士の横の連携（ゼミ間交流）を促すことも大事なのではないか。
・探究活動やフィールドワークが、生徒の将来に直結する体験となるよう、目的意識の醸成、社会人としてのマナー（アポ取り・安全確認）、目標スケジュール（起承転結）を意識させた指導を継続する必要がある。